



山形市立第一中学校  
第2学年通信 第9号  
平成31年3月10日

## 一人一人の確かな歩みと成長を感じた3 学期でした

2年生としての登校も、残りわずかになりました。生徒にとっても、あっという間の3学期だったと思いますが、保護者の皆様にとっても「中学校に入学したのがついこの前だったのに、もう来年度は3年生（受験生）なのよね」と感じておられる方も多いのではないのでしょうか。保護者の皆様には、この1年間様々な面で、ご支援ご協力いただきまして、誠にありがとうございます。

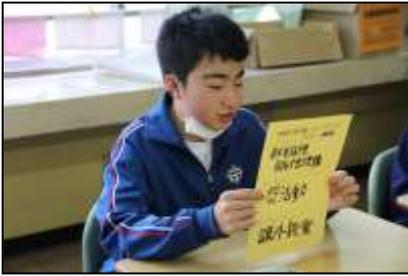
さて、現在連峰学年の生徒達は、部活動や生徒会のバトンを先輩から確かに受け継ぎ、学校をリードする立場としてがんばっています。また、3学期は生徒会のメンバーを中心に「3年生を励ます会」「小中交流会」などの行事をしっかりと企画・運営しました。

学習面では、毎日の「テキスト学習」や週ごとの「確認テスト」を通して、来年度の進路目標実現のための確かな歩みを行っています。一方で、その進路目標実現のために、一人一人が1校～2校の「高校調べ」を行い、クラスごとに発表会を行いました。発表会では、それぞれが自分の調べたことを堂々と発表し、活気ある意見交換も行われました。その様子については、この学級通信に載せさせていただきました写真になります。

4月からは、いよいよ3年生になります。最高学年としての誇りを持って、何事にも前向きに取り組む生徒。思いやりを持ち、他への目配りや気配りなどの温かい配慮ができる生徒。進路実現のために必要な確かな学力を身につけるために、ひたむきに学習に取り組む生徒。将来の夢を真剣に考え、それを語る事ができる生徒。1年後、こんな生徒達になってほしいと願っています。

年度末の春休み期間、ご家庭でも今日の進路研修会での話を話題にさせていただき、生徒が確かな目標を持って、4月からのスタートができますよう、ご協力の程よろしく願いいたします。





## ～私たち、「連峰学年の目指すべき姿」とは～

連峰学年の皆さん、「連峰学年の目指すべき姿」に、今年度はどれくらい近づくことができたでしょうか。また、「連峰学年の目指すべき姿」とは、どんな姿だったでしょうか。3年生への進級を前に、改めて確認すると共に、その言葉の意味をしっかりと昇華し、3年生のステージへと進級していきましょう。

### <連峰の精神>について

山はそれぞれの個性をもっています。

ひとつひとつが天に向かってそびえ立っています。

それらの山は決して孤立しているではありません。

がっちりと肩を組み、ふもとは一つになって、連峰を形づくっているのです。

私たち一中生は、この連峰のように一人一人が個性をもち、自己を高め、

そして、決して孤立せず、互いを高め合いながら一つのまとまり、

つまり一中をみんなで作っていくことが「連峰の精神」です。

このように一中生が奥羽連峰のように伸びてほしい。個性豊かで自主性に満ちた人間、誠実で仲間を大切にする人間、高い理想を求めて逞しく前進する人間、そんな人間に育ってくれることを期待して「連峰の精神」がつくられました。

自分が伸びるためには、仲間も伸びなければなりません。自分だけがよくなるという考えは捨てなければなりません。互いに良さを認め合いながら、互いに育つ環境を作っていく必要があります。自分を肯定し、他人をも肯定することで、考える力や行動する力が大きくなります。そして、「自分には価値がある」と信じられるようになり、多少の失敗や挫折に直面しても、失敗を生かして進むことができるようになります。この「連峰の精神」を大切にしていけば仲間を一人ぼっちにしてしまう「いじめ」などは起きにくくなります。もちろん、人が嫌がることをしない、悪口、噂話、無視、命令口調、馬鹿にする、暴力など自分がされて嫌なことをしないのは当然のことです。

